

平成 29 年度

障がい者スポーツ・レクリエーション活動基盤づくり事業

事業報告



2018.3.13

NPO 法人スポーツウエイヴ九州

●はじめに

本事業は今年度で3年目を迎え、県内23クラブが障がい者スポーツの実践を行った(以下参照)。

■平成27年度新規クラブ(平成28年度継続クラブ)

福岡地区	:NPO 法人ふみの里スポーツクラブ
福岡地区	:NPO 法人春日イーグルス
北九州地区	:NPO 法人スポネットしろやま
北筑後地区	:わくわくクラブのおがた
南筑後地区	:SOUTH クラブ
筑豊地区	:L&S たがわ
京築地区	:総合型地域スポーツクラブよろうや
京築地区	:NPO 法人しいだコミュニティ倶楽部
北九州市	:NPO 法人北九州スポーツクラブ ACE

■平成28年度新規クラブ(平成29年度継続クラブ)

福岡地区	:NPO 法人 ISC 系島スポーツクラブ
福岡地区	:NPO 法人カミーリア筑紫野スポーツクラブ(継続断念)
北九州地区	:NPO 法人 colour
北筑後地区	:桜花台スポーツクラブ
南筑後地区	:NPO 法人 KATT ASIA
筑豊地区	:オリエントスポーツクラブ
京築地区	:豊前ピープルズ
北九州市	:NPO 法人 TOTOS 北九州

■平成29年度新規クラブ

福岡地区	:なかがわ AC
福岡地区	:スポーツ BRANDEX 福岡
北九州地区	:感田少年サッカークラブ
北筑後地区	:みづスポクラブ
南筑後地区	:スポーツクラブみやま
筑豊地区	:EAST クラブ(実施断念)
京築地区	:スポネットながお(実施断念)
京築地区	:吉富町体育協会
北九州市	:きくスポ(実施断念)

本年度、第1回目の実行委員会にて立命館大学の金山委員の指摘にもあったが、「法人格の有無」「指導者(資格)の有無」「実績の有無」「当事者性(障がい者自身あるいは関係者がクラブに在籍)の有無」「プログラム企画力」、こういったことが障がい者スポーツの実施に関係があるとのことだった。

以上の観点を、3年間実施してきたクラブに当てはめると、1~2年目の実施クラブは上記の要件を満たすクラブが多く、3年目となる今年度はやや脆弱な面もあり、実施を断念したクラブもあった。

しかしながら、その分、課題が浮き彫りになったともいえる。

今年度の実施状況を振り返り、事業の成果や課題を整理する。

●本事業の趣旨

本事業は、障がい者が身近な地域で個々の能力に応じたスポーツ活動を行えるようにするため、①スポーツ活動を実施する「場」づくり、②プログラムの提供及び活動を支援する「指導者」の育成、③各地域でスポーツ活動が実践できる「しくみ」づくり、を推進する。

また、地域において障がい者が継続的にスポーツに参加できる環境の整備を促進するため、障がい者スポーツ普及のための、①体制づくり、②ノウハウ開発、③事業成果などを検証する。

●事業内容

①総合型クラブによる障がい者スポーツ・レクリエーション活動

県内の総合型地域スポーツクラブ(継続7クラブ、新規8クラブ)において、地域の実態に応じた障がい者スポーツレクリエーション活動プログラムを実施する

②初級障がい者スポーツ指導員資格取得講習会の開催

事業対象クラブをはじめ、各市町村のスポーツ推進委員、スポーツ指導を行っている指導者に対し、初級障がい者スポーツ指導員資格取得のための講習会を開催する

③事業内容報告会の実施

事業実施クラブによる、地域における障がい者スポーツ・レクリエーション活動の実施計画及び進捗状況報告会、事業報告会を実施する。クラブ間の情報共有や連携体制の強化を図り、事業後も活動が継続するしくみを協議する。

●今年度の事業概要

①総合型クラブによる障がい者スポーツ・レクリエーション活動

実施するクラブは各地区連絡協議会(7地区)より選出し、地区毎に説明会を行い、各クラブにて事業を行った。

【説明会日程】

- ・9月27日(水) 北九州地区 (colour・感田)
- ・9月29日(金) 北筑後地区 (桜花台・みづスポ)
- ・10月2日(月) 南筑後地区 (KATT ASIA・みやま)
- ・10月10日(火) 北九州市 (TOTOS・きくスポ)
- ・10月13日(土) 筑豊地区 (オリेंट・EAST)
- ・10月17日(火) 福岡地区 (ISC・なかがわ AC・BRANDEX)
- ・10月20日(金) 京築地区 (ぶぜん・スポネットながお)

※事業の実施などは別項に記載

②初級障がい者スポーツ指導員資格取得講習会の開催

1月20日(土)・21日(日)・27日(土)に久留米大学(みいアリーナ)にて実施(詳細は別項参照)。受講者は16名

③事業内容報告会の実施

3月10日(土)にアクション福岡にて実施(詳細は別項参照)。

●実施を断念したクラブの理由

・NPO 法人カミーリア筑紫野スポーツクラブ

本クラブは昨年度に事業を開始し、車いすバドミントンのプログラムを行ったが、教室開催については概ね1~2名の参加しか見られず、教室の度に指導者を配置する負担が大きいとのことだった。また参加者を増やす広報にも苦勞をしたようで、継続の実施を断念したいとのことだった。

・EASTクラブ・スポネットながお

両クラブとも連絡協議会にて選出される際には、チャレンジしようとの意志は見られたものの、実際に事業を進めるにあたって、クラブの絶対的な資源不足(人材・企画力・組織力・ネットワークなど)があり、実施には至らなかった。

・きくスポ

本クラブは自治会であるまちづくり協議会に属するクラブである。以前より障がい者スポーツに取り組む機運はあり、今回をきっかけに具体化を進めた。指導者の確保までこぎ着けたが、まちづくり協議会に意思決定は委ねられる仕組みとなっており、事業の実施への決断まで時間を要してしまった。ただ、実施をすることは決まったので、来年度以降、こういった助成を使わずにクラブ単体で障がい者スポーツに取り組むこととなった。本事業が一つのきっかけになったというのが関係者の意見であった。

①総合型クラブによる障がい者スポーツ・レクリエーション活動

平成 29 年度障がい者スポーツ・レクリエーション活動基盤づくり事業レポート

クラブ名：糸島スポーツクラブ

担当者：飯田 武正

【事業概要】

事業名	障がい者スポーツ体験交流教室
事業形式	イベント
日程	11月25日(土)10:00 - 12:00・12月7日(木)14:00~15:30
会場	糸島市可也公民館・糸島市障がい者支援施設小富士園
対象者	玄海第一育成園約30名+職員8名 小富士園約15名+職員5名

【事業内容】

プログラム	<ul style="list-style-type: none">・健康レクササイズ(音楽に合わせた準備&整理体操)・ニュースポーツ体験会 (ラダーゲッター/ボッチャ/テーブルガラツキー/テイスゲッター)
成果	用具を多種そろえたことで、新規の事業を行うことができた。特に障害を持つ親御さん達にとっては、こういった場でスポーツに親しめる機会を提供できたことは大いに喜んでいただいたと思う。現場でのニーズは十分に理解をすることができた。また今後の継続として、各施設間のネットワークの構築や人材育成の研修なども行っていくこととした。
今後の課題	二点ある。一つはクラブ内のマンパワー不足。質的にも量的にも。市民のみなさんの認知度を上げながら、クラブに関わってくれる人を増やしていきたい。二つ目は本事業の理解不足。学校や施設を回って協力を求めたが、学校はほぼ無理であり、施設も9箇所回って少なからず理解を示してくれたのは4箇所。総合型地域スポーツクラブと障がい者スポーツのことを単体で営業していくのは苦勞した。もっと認知度を上げるような広いネットワークが必要ではないかと感じる…また施設同士のネットワークを作り総合支援的な活動もしていきたいと考える。



障がい者のための スポーツ交流体験教室

教室	日程	会場
第1回	3月	あこら
第2回	4月	小富士園
第3回	5月	あこら
第4回	6月	玄海第一育成園
第5回	7月	いとキッズ
第6回	8月	小富士園
第7回	9月	玄海第一育成園
第8回	10月	サンスマイル
第9回	11月	あこら
第10回	10月	あこら

●レク&ニュースポーツ等を実施予定。
●天候等によりスケジュール変更有り。

主催 I S C系島スポーツクラブ
 後援 糸島市、糸島市教育委員会
 協力 みらいの樹、小富士園、
 玄海第一育成園、いとキッズ



平成 29 年度障がい者スポーツ・レクリエーション活動基盤づくり事業レポート

クラブ名 : colour

担当者 : 佐藤 諒

【事業概要】

事業名	サッカーアトリエ (前半:外遊び・後半:障がい者スポーツ)
事業形式	教室
日程	毎週月曜日 (17:00~19:00)
会場	春日台六丁目公園
対象者	幼児~高校生 (障がい者及び健常者) 平均 8 名

【事業内容】

プログラム	ブラインドサッカーを中心にキックベースボールなどを遊びで行ったりしている
成果	子どもたちの成長については実感として成果を感じる。元々コミュニケーションを取ったりすることが苦手な子どもたちなので、スポーツを通じて少しずつでもそういったことができるようになっていくのは、見ていてスポーツの可能性を感じている。ただ、対象がそういった子どもたちなので、なかなか友達を連れてくるといった連鎖反動的な感じにはならないとも感じているところ。。
今後の課題	一つには、この事業の伝え方。去年は予算を使って大々的にチラシを配布したが、ほとんど効果はなかった。対象を「障がい者」と書いてしまったことで、言葉が先行してしまい、逆効果になってしまったと感じる。本当はもう少し人が増えた方が子どもたちも楽しいのだと思う。今後、IT を使った遊びの開発も広がってきているので、そういった道具を用いながらプログラムを広げていきたい。



平成 29 年度障がい者スポーツ・レクリエーション活動基盤づくり事業レポート

クラブ名：桜花台クラブ

担当者：井手 浩

【事業概要】

事業名	心のバリアフリーのお話と障がい者スポーツの体験会
事業形式	イベント
日程	平成 29 年12月5日(火)・平成 30 年 2 月 15 日(火)10時~13時 平成 30 年 2 月 24 日(土)13 時~17 時
会場	久留米市立南薫小学校・久留米市立高良内・久留米シティープラザ
対象者	4年生80名(障がい児6名)・小学校 6 年生 80 名・ 100 名(障がい者は 4 割程度)

【事業内容】

プログラム	車椅子バスケット ブラインドサッカー ゴールボール ボッチャ 風船バレー パラリンピック種目体験
成果	健常の子どもたちが知的障がいの子と触れあう機会の提供ができた。その際、まわりのスタッフ(大人)が健常の子どもたちにきちんとした理解を求めることが大事。例えば「かわいそう」という言葉を使ったとして、「何がかわいそうなのか?」「どうすればかわいそうではなくなるのか?」そういった配慮をし、子どもたちが理解すれば一緒に遊ぶことができる。こういった体験を広げることができた。以上のことを学校との連携やまちなかでのイベント実施の実績につなげることができた。
今後の課題	障がい者スポーツの施策は、県や市町村レベルでも違うし、年度によっても変わってしまう。そういった施策に振り回されることが少なくない。スタートは切ったものの、ゴールがどこなのかがわからない。当クラブは実績を積んできたので、予算や事業ありきでのイベントはやらなくなった。総合型地域スポーツクラブと障がい者スポーツを広げるのであれば、何をしても半永久的に窓口を一本化して欲しい。例えば、連絡協議会など。また外部のイベントとの協働も今後、模索をしていきたいと考える。